

高校通級における生徒とのかかわりと校内体制についての課題

—「指導の実施」にかかわる教員による自由記述回答の分析—

○竹村 洋子*・若林 上総**・井上 秀和*・笹森 洋樹*

(*国立特別支援教育総合研究所・**宮崎大学)

KEY WORDS: 導入期 通級による指導 高等学校

【問題と目的】

高等学校における通級による指導が平成 30 年度に制度化され、現場での取組が進められている。通級による指導は、その設置の目的から通級指導教室や担当者による取組のみにとどまらず、多角的に取組の状況を捉える必要がある。高等学校における通級による指導に関し、担当教員の専門性とその発揮を支える校内体制の整備について検討し制度導入期の課題を整理することを目的に、通級指導教室を設置する高等学校・特別支援学校と通級による指導にかかわる教員を対象に質問紙調査を実施した。本発表では、「指導の実施」にかかわる教員による、生徒とのかかわりと校内体制の課題についての回答の分析結果を報告する。

【方法】

調査対象：高等学校における通級による指導のための通級指導教室設置校 139 校、通級による指導にかかわる教員各校 5 名程度を対象とした。通級による指導にかかわる教員については、制度導入期の現場の状況を考慮し、「通級による指導の担当として分掌上位置づけられている教員の他、通級による指導において、直接生徒とのかかわりを持っている教員を含む(但し、学級担任や教科担当としての指導は除く)」と定義し、抽出は各校に委ね、5 名未満の場合は全員の回答を依頼した。郵送で質問紙を配布・回収し、125 校より(回収率 89.9%)、351 名分の回答を得た。

調査時期：令和元年(2019 年) 5 月～7 月

質問紙：(1)各校、及び、各教員の概況を尋ねるフェイスシート、(2)通級による指導に係る教員の専門性と校内体制に関する 45 項目、(3)通級による指導を進めるにあたっての課題に関する自由記述欄で構成し、個人名は無記入とした。

倫理的配慮：個人情報の保護や対象者への配慮などについて、国立特別支援教育総合研究所倫理審査委員会の審査を受けて事前に調査実施の許可を得た。

分析対象：(1)で「指導の実施」にかかわると回答した教員 267 名の(3)生徒とのかかわりの課題と校内体制の課題についての自由記述欄への回答

分析手続き：

生徒とのかかわりの課題、校内体制の課題について 50 名分を目安に、各回答を研究者 2 名が協議して内容毎に分割し、分割された各記述を分類した。「特になし」などの回答は除外した。分析手続きを 2 者間で確認後、各課題について回答の分割と記述の分類を各 1 名が継続しカテゴリを生成した。各課題についてカテゴリ生成後、結果を分析に関与しない別の研究者各 1 名が確認し、疑問点についてカテゴリ生成を行った 1 名と協議した。その内容を受けて分析結果を同定した。

【結果と考察】

生徒とのかかわりの課題では 172 名による回答があり、12 名分の回答が除外され、分類対象となった記述数は 244 で、14 カテゴリが生成された(図 1)。「生徒の自己理解や主体的な取組」「困難さの自覚や受講への同意」など、指導を受ける生徒の取組に関する内容、「ニーズや実態の把握」、「ニーズに応じるための指導体制」など、体制を含め生徒のニーズに応じた指導に関する内容が記述されていた。「在籍級・校との連携や指導の連続性」についても記述があり、「指導の実施」に

かかわる教員が、当該の教室にとどまらず、生徒のニーズに応じながら指導やかかわりを進める必要性を感じていると考えられた。またニーズにとどまらず「信頼性の構築」「受講

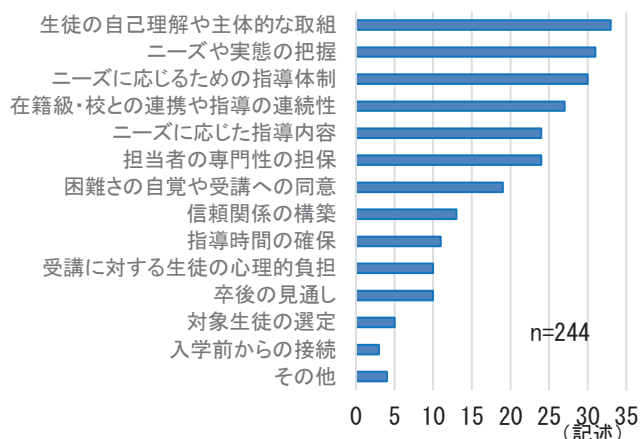


図 1 生徒とのかかわりについての課題

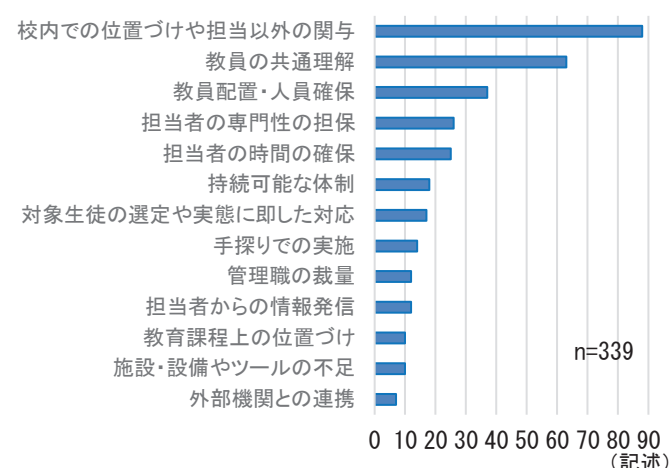


図 2 校内体制についての課題

に対する生徒の心理的負担」などの記述から生徒の心理面への配慮についての課題を感じていることも伺われた。

校内体制の課題では 198 名による回答があり、除外された回答は 7 名分、分類対象となった記述数は 339 で、13 カテゴリが生成された(図 2)。「校内での位置づけや担当以外の関与」「教員の共通理解」に関する記述が多く、「指導の実施」にかかわる教員が、通級担当者以外の関与や理解などを得て学校全体で進めていく必要性を感じていることが示された。また、「教員配置・人員確保」「担当者の専門性の担保」「持続可能な体制」などから、特定の担当者のみが指導を担うのではなく、教員配置や担当者養成も含め、学校全体としての指導体制を充実させていく必要性が伺われた。

今後、「指導の実施」にかかわる教員以外による回答の分析などを進め、高校通級制度の充実に向けて考察を深めたい。

付記：発達・情緒班の研究の一環として実施した。

(TAKEMURA Yoko, WAKABAYASHI Kazusa, INOUE Hidekazu, SASAMORI Hiroki)